

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
 担当課長名：中島 威夫

事業名	一般国道4号 郡山バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点	自：福島県須賀川市大字仁井田字大谷地 至：福島県安達郡本宮町大字荒井	延長	17.2 km		
<p>事業概要</p> <p>郡山バイパスは、福島県須賀川市～安達郡本宮町間に計画された延長17.2 km（全線4車線供用済）の国道4号のバイパスである。うち延長約14 kmについては、地域高規格道路郡山西環状道路として位置づけられている。</p> <p>郡山都市圏周辺市町村の交流促進及び、郡山市街地の交通混雑の緩和や交通の適切な分散・誘導による郡山都市圏の交通円滑化を目的とし、針生・柴宮地区において残る交差点立体化の事業推進を図っている。</p>					
S49年度事業化		H6年度都市計画決定		S49年度用地着手	
S50年度工事着手					
全体事業費	約920億円		事業進捗率	91%	
計画交通量	47,000台/日（平成42年度）		供用済延長	17.2 km	
費用対効果 分析結果	B/C（事業全体）	3.0		総費用	80/114億円
	（残事業）	4.2		事業費	71/105億円
		維持管理費		9/9億円	
		総便益		337/337億円	
		基準年		平成15年	
		走行時間短縮便益		287/287億円	
		走行費用減少便益		27/27億円	
		交通事故減少便益		23/23億円	
<p>事業の効果等</p> <ul style="list-style-type: none"> 円滑なモビリティの確保（現道において20km/h未満である旅行速度の改善が期待される） 国土・地域ネットワークの構築（地域高規格道路「郡山西環状道路」に位置づけられている） <p>他14項目に該当</p>					
<p>関係する地方公共団体等の意見</p> <p>郡山バイパスは、地域間交流の促進、交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、郡山市をはじめとする5市22町20村の首長で構成される福島県中・県南・会津地区国道協議会より早期整備の要望（平成15年11月18日）を受けている。</p>					
<p>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</p> <p>この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。</p>					
<p>事業の進捗状況、残事業の内容等</p> <p>【執行済み額】 事業費：840億円（進捗率91%） うち用地費：310億円（進捗率97%）</p>					
<p>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</p> <p>用地補償協議で時間を要していたが、現在は事業進捗に係る問題は解消しており、平成10年代末暫定2車線立体化供用（針生高架橋）を目標に事業推進を図る。</p>					
<p>施設の構造や工法の変更等</p> <ul style="list-style-type: none"> 早期に投資効果発現を図るべく暫定2車線施工（交差点立体化）を実施する。 擁壁形式について補強土壁を採用しコスト削減を図っている。 					
<p>対応方針 事業継続</p>					
<p>対応方針決定の理由</p> <p>以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。</p>					
<p>事業概要図</p>					

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。